

令和6年 第4回 大仙市議会定例会

市 政 報 告

令和6年11月29日

大仙市長 老 松 博 行

令和6年第4回大仙市議会定例会にあたり、諸般の状況について申し上げます。

はじめに、「大曲の花火」についてであります。

「第96回全国花火競技大会」につきましては、8月31日、国土交通省をはじめ、秋田県警や広域消防、消防団など関係機関の皆様のご協力のもと、盛大に開催されました。

当日は、台風10号の影響が心配されたところではありましたが、夜花火の部が始まる頃には天候が回復し、全国からご参加いただいた28の花火会社が技術の粋を詰め込んだ、創造性あふれる花火が次々と夜空を彩り、全国から訪れた多くの花火ファンを魅了しております。

また、「THE GREATEST SHOW」と題した大会提供花火は、7月のモントリオール国際花火競技大会で銅賞に輝いたプログラムをベースに、誕生から60周年を迎える創造花火の要素をふんだんに詰め込み、世界に認められた芸術性の高い花火が壮大なスケールで打ち上げられたほか、大仙市誕生20周年を記念した特別プログラムをお届けしており、会場から大きな拍手と歓声をいただいております。

競技花火においては、株式会社小松煙火工業が、地元花火会社として第87回大会以来の内閣総理大臣賞に輝いており、日本最高峰と評される全国花火競技大会「大曲の花火」の開催地として、この地域の高い

煙火技術と創造性を改めて示す機会になったものと考えております。

10月5日に開催された「大曲の花火 秋の章」では、パリ・オリンピックの女子マラソンで6位に入賞し、全国に元気と感動をもたらした鈴木 優花選手の活躍を記念した特別花火や、「大仙市誕生20周年記念花火」として、大曲の花火の将来を担う地元若手花火師のプロデュースにより、躍動感あふれる花火が打ち上げられております。また、秋田らしさを表現したドローンショーや、世界の絵画を描いた花火パビリオンなど、多種多様な演出で、ご観覧いただいた皆様に、秋の夜空に輝く芸術祭をお楽しみいただいております。

次に大仙市誕生20周年記念事業についてであります。

次代を担う高校生の夢を後押しする「はたちだいせん 輝け未来プロジェクト」につきましては、これまで、市内の6つの高等学校のうち4校で開催しております。Aターンなどを経て大仙市で活躍されている若者をゲストにお迎えし、Aターンのきっかけや、市外での生活を経験したからこそ気付くことができた大仙市の魅力などをお話しいただいており、未来に向かって羽ばたこうとする生徒たちにとって、大きなエールになることを期待するところであります。

市民が主役のまちづくり講座「大仙アカデミー」につきましては、9月28日、大曲市民会館小ホールを会場に開催しており、約250人

の市民の皆様にご来場いただいております。今回の講座では、ドローンショーの国内最大手であり、大曲の花火年間スポンサーでもあります株式会社レッドクリフの代表取締役で、最高経営責任者の佐々木 孔明^{こうめい}氏を講師にお迎えし、「ドローンがつなぐ未来、最新の活用事例と次世代の可能性」と題して、ドローンの最新の動向やドローンショーがつなぐ可能性と未来について講演をいただいております。また、同社のご協力のもと、講演にあわせてドローンプログラミング教室を開催しており、先端技術に触れる貴重な機会となっております。

11月9日には、読売巨人軍の四番打者として活躍され、引退後は読売巨人軍や、野球日本代表「侍ジャパン」の監督を務められるなど、長きにわたり日本プロ野球界を牽引されている原 辰徳氏を講師にお迎えし、仙北ふれあい文化センターを会場に「大仙市誕生20周年記念特別講座」を開催しております。当日は、約600名の皆様のご来場のもと、「野球と私」と題し、これまでの野球人生を通じたエピソードや、自身が大切にされている教訓などの貴重なお話をいただいております、人と人とのつながりや絆を再認識するとともに、挑戦し続けることの意義を考える有意義な機会になったものと考えております。

また、市内の3つの道の駅では、特産品等の割引販売や道の駅を巡る周遊キャンペーンを展開しており、市内外から多くの皆様にお楽しみいただくとともに、道の駅や特産品の認知度を向上させ、本市の魅力を

発信する絶好の機会となっております。

さらに、各地域においては、住民の皆様との共創により、地域の特色を活かした記念事業が展開されております。神岡地域では、神岡中央公園を会場に「すくすくキッズフェス」が開催されており、親子連れを中心に、のべ3千人を超える皆様に来場をいただいております。西仙北地域や南外地域では、地域の特産品販売拠点においてキャンペーンを展開しているほか、中仙地域や協和地域においては、地域を代表するイベントを拡充して開催しております。仙北地域では、熱気球に搭乗し、払田柵跡や仙北平野を一望するイベントを開催しており、太田地域では、地域で生産されたエディブルフラワーを活用した記念グルメを募集し、市内6店舗で提供するなど、多くの皆様にお楽しみいただくとともに、20周年記念の節目に向けた機運醸成につながっております。

このほか、大仙市民ギャラリーや大仙市アーカイブズにおいて特別展示を開催しているほか、協賛事業やカウントダウン写真の募集も行っているところであり、引き続き多くの皆様にご参加いただき、市民の皆様と共に創り上げる20周年にしていきたいと思いますと考えております。

次に、主な部局ごとに諸般の報告を申し上げます。

はじめに、企画部関係についてであります。

「若者チャレンジ応援プロジェクト」につきましては、秋田大学の

ご協力のもと、高校生の目線から地域の課題や魅力を探り、その解決策や活用方法を考える過程を通じた大仙市を舞台に活躍する若者の創出に向け、高校生向けのワークショップを令和4年度から展開しており、今年度は大曲工業高等学校の1年生を対象に開催しております。ワークショップでは、教育文化学部の学生9名に協力をいただき、地域の課題解決に向けた活発な話し合いが行われており、9月30日に校内で開催された発表会では、高校生ならではの柔軟で新鮮なアイデアが発表されております。

また、学生の柔軟な発想を地域の課題解決や、活性化につなげることを目的に実施している「大学生等フィールドワークサポート事業」を活用し、9月9日と25日の両日、同学部の学生6名が発酵文化をテーマに市内で調査活動を行っているほか、若者チャレンジ応援補助金を活用し、秋田公立美術大学の大学院生が市内3つの中学校と連携しながら、絵画の新たな鑑賞形態の普及に向けた取組を進めております。

このほか、国際教養大学の学生団体「FROM PROJECT秋田」と連携したサポートのもと、豊かな自然を活かし、こどもの遊びに焦点をあてた大曲高等学校の生徒のプロジェクトが進行中であり、大仙市を舞台に、学生を中心とした多彩なチャレンジが展開されております。今後も関係機関や団体と連携を図りながら、若者のニーズに寄り添ったサポートや柔軟な支援を通じ、チャレンジの輪を広げてまいります。

次に、市民部関係についてであります。

地球温暖化対策につきましては、10月を実施期間に、連携協定を締結しているあいおいニッセイ同和損害保険株式会社のご協力のもと、「エコドライブ選手権」を開催しており、市内65事業所、107チームに参加をいただいております。参加した多くの皆様からは、好評の声をいただいたところであり、脱炭素社会の実現に向けた理解の促進と、主体的な行動を後押しする機会として、事業内容を検証したうえで継続してまいりたいと考えております。

公共施設へのEV充電器の設置につきましては、「道の駅 協和」及び「道の駅 なかせん」への急速充電器の設置が完了し、10月17日に供用を開始しております。また、普通充電器の導入を予定している13施設につきましても、国の補助事業採択の目途が立ったことから、今年度中の稼働に向け、準備を進めているところであります。

ごみの減量化と温室効果ガスの削減を目的に、10月から11月にかけて実施しているプラスチック資源の分別回収実証事業につきましては、市民の皆様のご理解とご協力により、目標とする収集量を確保しております。来年4月からの本格実施に向けた国への申請手続きも順調に進捗しており、他の資源ごみと同様、全ての市民の皆様にリサイクルに対する意識が浸透するよう、準備を進めてまいります。

次に、こども未来部関係についてであります。

「こどもまんなか社会」の実現に向けた具体的な手立てを示す「大仙市こども計画」につきましては、アンケートやワークショップなどを通じて寄せられた、こどもや子育て世帯の声を参酌しながら、今野副市長を総括に、庁内の関係部課長で構成する「子育て支援制度等検討会議」において課題の整理や、その解決に向けた施策の検討を進めてきたところであります。

その後、子育て世帯やこども・子育てに関わる各分野の代表者、学識経験者の皆様を委員とする「大仙市子ども・子育て会議」を開催し、こどもの権利や居場所、心身の発育など、様々な分野にわたり貴重なご意見をいただいております。今般、こうしたご意見を反映し、計画の素案がまとまったことから、今次定例会の会期中に、その概要を説明させていただきたいと考えております。

次に、農林部関係についてであります。

稲作につきましては、10月25日現在の全国の作況指数が「101」の平年並み、秋田県が「102」、県南が「103」のやや良と発表されており、JA秋田おぼこ管内における11月25日現在の1等米比率についても96.6%と、高温障害の影響を受けた前年産米と比較し、大幅に高い水準となっております。また、米価につきましては、急速な

回復をみせるインバウンドなどによる外食需要の増加や、昨年の猛暑による全国的な不作などの複数の要因が重なり、需給バランスが崩れたことが影響し、J A全農秋田の標準的なあきたこまちの概算金は、前年度から大幅に増加し、1万8千800円となっております。

稲作を基幹に位置付ける本市にとりましては、農業所得の向上につながるものと大いに期待するところではありますが、その一方で、高止まりする生産コストや深刻化する気候変動など、農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。国においては、6月に改正された「食料・農業・農村基本法」に基づき、コメを含む食料の合理的な価格形成に向けた議論が進められているところであり、その動向を注視しながら、農業経営の安定化に努めてまいります。

「第18回大仙市秋の稔りフェア」につきましては、10月19日と20日の両日、大曲ヒカリオイイベント広場や花火通り商店街等を会場に開催しております。初日は時折強い雨に見舞われる、あいにくの天候でしたが、2日間で約2万8千人の皆様にご来場いただき、大仙市の誕生20周年を記念した「だいせん軽トラ市」での割引販売のほか、地場産食材による「うまいもの食堂」や商工業展示、柳葉 敏郎氏によるスペシャルトークショーをはじめとする各種ステージなど、多彩な催しをお楽しみいただいております。2日目には、地元商店街と雄物川鮭増殖漁業生産組合のご協力のもと、丸子川街区公園を会場に小学生を

対象とする「鮭のつかみどり」を催しており、ウライの見学や鮭料理の試食を通じて鮭文化への理解を深めていただいております。

鳥獣被害防止対策につきましては、８月にかけて昨年を上回るツキノワグマの目撃情報が寄せられていたことを受け、被害防止対策の強化を図ってきたところであります。緊急性の高い市内６地区における緩衝帯の整備に加え、捕獲現場へのデジタル技術の導入や電気柵の効果を検証する実証事業を実施しているほか、栗や柿などのクマを誘引する樹木の伐採を促進する「誘引樹木伐採事業補助金」につきましては、６１件の申請をいただいております。

１１月２７日現在の目撃件数は１１８件と、昨年同時期と比較して２０６件の減少となっており、全県的にも減少傾向で推移していることから、１０月３１日を期限に発令されていた秋田県の「ツキノワグマ出没警戒警報」は、１１月から「出没注意報」に引き下げられております。これから冬眠の時季に入りますが、引き続き関係機関と緊密に連携を図りながら、被害の未然防止に努めてまいります。

次に、経済産業部関係についてであります。

雇用・就業対策につきましては、１１月５日と２１日の両日、それぞれ大曲西中学校と中仙中学校を会場に「仙北地域中学生向け企業説明会」を開催しております。この説明会は、地元企業を知っていただ

き、ふるさとへの関心や愛着を一層高めるとともに、将来的な進路の選択に役立てていただくことを目的に令和４年度から実施しているもので、あわせて１０７名の生徒が参加し、出展したのべ１８社の説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問しております。こうした取組は、成果の発現に一定の期間を要するものでありますが、引き続き関係機関と連携を図りながら、若者の地元定着に向けて積極的に展開してまいります。

「大曲企業団地」につきましては、第２期造成工事が１１月１日に完了し、１月の分譲開始に向け、確定測量や分筆登記等の諸手続きを進めているところであります。これにより、第１期の１区画とあわせて６区画、約６ｈａが売渡し可能となりますので、生産拠点の国内回帰や堅調な設備投資など、企業の動向や立地需要を的確に捉えながら、トップセールスによる積極的な誘致に努めてまいります。

「大仙市首都圏企業懇話会」につきましては、誘致企業の本社をはじめ、立地を検討されている企業や本市に縁のある企業３５社の関係者、並びに古谷議長、挽野産業建設常任委員長、商工団体など総勢５１名の参加のもと、１１月１２日、東京都において開催しております。懇話会では、私から市政報告を申し上げるとともに、平成２９年に大曲工場を創業し、秋田県沖洋上風力発電事業の認定候補サプライヤーでもあります、株式会社ケーエムエフの^{おおやぶ まさひこ}大藪 雅彦取締役副社長から講演をいただくなど、先進事例に触れながら、活発な情報交換が行われております。

次に、観光文化スポーツ部関係についてであります。

観光振興につきましては、インバウンド観光事業として、10月3日から6日にかけて、台湾の旅行関係者とインフルエンサーを招いたモニターツアーを実施しております。ツアーでは、「大曲の花火 秋の章」の観覧のほか、旧池田氏庭園や市内酒蔵などを巡っており、豊かな田園風景や受け継がれてきた伝統文化に評価の声をいただいたほか、花火を組み込んだ団体旅行の商品化に前向きな意見をいただいております。

また、11月1日から3日間の日程で、台湾最大の旅行博覧会「台北国際旅行博」に初めて参加し、本市の魅力や観光資源を旅行関係者にPRしております。今後、こうした取組で得たネットワークや経験を活かしながら、観光コンテンツの発掘・磨き上げと発信を行い、インバウンド誘客の促進と地域内での観光消費の拡大につなげてまいりたいと考えております。

「第44回全県500歳野球大会」につきましては、9月14日から5日間の日程で、神岡野球場を主会場に市内18会場で開催されております。今大会には全県から181チームが出場し、大熱戦の末、秋田市の秋銀クラブが8年ぶり6度目の優勝を飾っております。

大仙市誕生20周年を機に、これまでの大会を拡充し、初めて開催した「大仙太田ハーフマラソン」につきましては、北は青森県から南は広島県まで604名のランナーにエントリーいただき、10月13日に

開催しております。今大会では、ハーフの部の創設や電子計測の導入、大会ホームページの開設を行ったほか、南外地域出身で、リオデジャネイロ・オリンピック男子マラソンに出場した佐々木^{さとる} 悟氏をゲストランナーにお迎えし、大台スキー場を発着点に、思い思いのペースで秋の気配が感じられる仙北平野を駆け抜けております。

文化財の保存・活用につきましては、鈴木空如が残した「法隆寺金堂壁画模写」の第1作目を表装するため、10月1日からクラウドファンディングを受け付けております。11月27日現在、当初の目標額を大きく上回る305万5千円の寄附をいただいております。寄附者の皆様からは、保護活動に対する多くの応援メッセージもいただいております。

次に、建設部関係についてであります。

「国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会」並びに「高規格道路本荘大曲道路整備促進期成同盟会」につきましては、10月11日から11月20日までの間、内閣府や国土交通省、財務省、秋田県選出国會議員、秋田県などに対し、集中的に要望活動を行っております。

これにあわせ、国が重点的・集中的に進めている「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」についても、必要な予算を確保したうえで計画的に事業を推進するとともに、対策期間の終了後も継続的、かつ安定的に国土強靱化の取組を進めるため、国土強靱化実施中期計画

をできる限り速やかに策定することなどを強く要望しております。

最後に、令和7年度の当初予算編成について申し上げます。

本市の財政見通しにつきましては、1991年以来の高い水準となる賃金引き上げや、企業の堅調な設備投資、個人消費の回復基調などを背景に、市税や地方交付税の一定の伸びが期待されるものの、重要施策の財源として活用してきた合併特例債が発行期限を迎えたことに加え、不安定な世界情勢や金利変動リスクなどから、依然として先行きは不透明な状況にあります。

一方で、歳出については、エネルギー価格をはじめとする物価の高止まりや人手不足の影響などにより、公共施設や学校施設に係る維持管理費などの経常経費、公共事業費の増嵩が見込まれるほか、職員の雇用延長や会計年度任用職員の昇給、諸手当の支給に係る人件費の上昇、利払い費の増加が見込まれております。さらには、道路や河川などのインフラの計画的な更新に対応しながらも、子育て環境の充実やDX、GXなどの未来への投資にも的確に対応していく必要があります。

各種財政指標につきましては、歳出の抑制や各種基金への積み増しなど、これまで取り組んできた財政健全化策により着実に改善が図られる一方で、不足する財源を基金の取り崩しに依存する厳しい財政運営が恒常化しており、財政構造の抜本的な改革が急務となっております。

令和7年度当初予算につきましては、来年4月に市長選挙を控えていることから、経常的経費を中心とした骨格予算とすることを指示しておりますが、こうした見通しや財政状況を踏まえたうえで、「変化する社会情勢に適合した施策の推進」、「10年先を見据えた行財政の構造改革の継続的な取り組み」を基本方針に据え、予算編成を進めることとしております。

令和7年度に計画期間の最終年度を迎える「第2次大仙市総合計画」及び「大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略」の総仕上げと位置付け、職員一人ひとりが将来を見据えた「みらい志向」のもと、既存事業の効果検証に基づくより踏み込んだ事業の「選択と集中」や、公共施設等総合管理計画の着実な推進など、行政経営の視点から創意工夫をこらしながら編成作業を進めてまいります。

以上、諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、市政の報告とさせていただきます。

別添

令和6年第4回大仙市議会定例会

市政報告（諸般の報告）

令和6年11月29日

大 仙 市

目 次

【健康福祉部】

- 1 大仙市戦没者追悼式について 1
- 2 大仙市金婚式について 1

【農林部】

- 3 園芸メガ団地について 1
- 4 畜産振興について 1
- 5 鮭資源確保活用事業について 2

【観光文化スポーツ部】

- 6 友好交流都市との交流事業について 2
- 7 中里温泉改築事業について 2
- 8 スポーツ合宿について 2
- 9 文化財の保存・活用について 2

【建設部】

- 10 物渡台地区防災集団移転促進事業について 3

【教育委員会事務局】

- 11 「こころのプロジェクト 夢の教室」について 3
- 12 四ツ屋公民館改築事業について 3
- 13 第20回大仙市民交流囲碁大会について 3
- 14 大仙市ふるさと探訪楽園ツアーについて 4
- 15 第41回東北将棋大会及び第19回大仙市民交流将棋大会について
..... 4
- 16 第17回大仙市子ども囲碁大会について 4
- 17 大仙市音楽祭2024について 4
- 18 「だいせん読書の日」関連イベントについて 5

【上下水道局】

- 19 上水道事業について 5
- 20 簡易水道事業について 5
- 21 下水道事業について 5

【経済対策】

22	物価高騰対策	6月定例会	6
----	--------	-------	---

【健康福祉部】

1 大仙市戦没者追悼式について

大仙市戦没者追悼式につきましては、9月27日、仙北ふれあい文化センターを会場に開催しており、戦没者遺族をはじめ関係者86名の参列のもと、戦没者を追悼するとともに平和への思いを新たにしております。

2 大仙市金婚式について

大仙市金婚式につきましては、10月31日、仙北ふれあい文化センターを会場に開催しており、申し込みのあった47組のご夫婦の結婚50周年を祝福しております。

【農林部】

3 園芸メガ団地について

中仙地域で生産されているトマトにつきましては、10月末までの生産量は164トンと、昨年の185トンに対して約1割減少しておりますが、販売額は同程度となっております。天候不良等により、他の生産地において出荷量が少なく、市場価格が上昇した時期に安定して出荷できたことが販売額の維持につながったと伺っております。

大曲地域内小友地区で生産されているネギにつきましては、7月の2度にわたる大雨では場が浸水したものの、県や市の災害復旧支援を活用した薬剤散布、追肥などの応急対応や、関係機関の栽培指導のもとでの適切な管理など、生産者の不断の努力により、作付けした6ヘクタール全ての収穫が11月中旬に完了し、収穫量は昨年と比べて3割ほどの減少にとどまっていると伺っております。

今後も、収量の確保、生産者の持続可能な経営に向け、関係機関と連携し引き続き支援してまいります。

4 畜産振興について

畜産振興につきましては、令和9年に開催される「第13回全国和牛能力共進会」への出品を目指す大曲農業高等学校の生徒が、関係者とともに市内の肉用牛繁殖農家を巡回し、大会に出品する牛の母牛の選定を行うなど、本番に向けて着々と準備が進められております。市といたしましても、県やJA、畜産関係団体、地域の若手畜産農家などと連携を図りながら、引き続き挑戦を後押ししてまいります。

5 鮭資源確保活用事業について

鮭資源の確保活用事業につきましては、9月25日と27日の両日、それぞれ丸子川と玉川に遡上するサケを捕獲する「ウライ」を設置し、親魚の捕獲と採卵を開始しており、11月27日時点で1,102尾を捕獲しております。近年、全国的に不漁が続いておりますが、引き続き放流に必要な卵数の確保に努めてまいります。

【観光文化スポーツ部】

6 友好交流都市との交流事業について

国内の友好交流都市との交流につきましては、10月12日から3日間の日程で、座間市のサッカースポーツ少年団14名と監督やコーチ5名が本市を訪れ、ソラーレを会場に、交流試合やレクリエーションを通じて、市内のサッカースポーツ少年団と交流を深めております。また、11月16日から17日にかけて、古谷議長をはじめ、市議会議員の皆様とともに「座間市民ふるさとまつり」に参加しており、大仙市を大いにPRするとともに、座間市との交流をさらに深めております。

宮崎市との交流につきましては、10月25日から3日間の日程で、古谷議長をはじめ市議会議員各位、佐藤副市長、民間交流団体が宮崎市を訪問し、「宮崎市制百周年記念式典」や「宮崎神宮大祭」、交流事業等に参加しております。他の友好交流都市の皆様と宮崎市の市制100周年という大きな節目を祝うとともに、新たな試みとして特産品ブースを設け、大仙市の魅力を大いにPRしております。

7 中里温泉改築事業について

中里温泉改築事業につきましては、ふるさと館のリニューアル工事が順調に進捗しており、11月15日時点の進捗率は59.9%となっております。

8 スポーツ合宿について

スポーツ合宿につきましては、首都圏の大学を中心に、8団体、のべ1,991人が市内宿泊施設を利用して合宿を行っております。

9 文化財の保存・活用について

文化財の保存・活用につきましては、佐藤家住宅の特別公開を実施したほか、旧本郷家を会場に、浴衣の着付けや日本舞踊の体験イベン

トを開催しております。また、旧池田氏庭園では、親子茶道体験や洋館での大正ロマンカフェの限定オープンなどの催しを行っており、文化財を活用した特別な体験をお楽しみいただいております。どのイベントも定員を上回る申し込みをいただいております、幅広い世代に大仙市の文化財の魅力を発信できたものと考えております。

【建設部】

10 物渡台地区防災集団移転促進事業について

西仙北地域と南外地域の境界部に位置する物渡台地区の防災集団移転促進事業につきましては、9月9日に移転先の土地造成工事が完了し、土地の分譲に向けた確定測量や、分筆登記等の諸手続きを進めております。また、移転元の土地の売買や建物の補償につきましては、今年度中の締結を予定していた6戸との契約を終え、移転に向けた準備を進めているところであり、引き続き国と連携しながら、早期の移転完了に向けて事業を推進してまいります。

【教育委員会事務局】

11 「こころのプロジェクト 夢の教室」について

スポーツや芸術において第一線で活躍された方を、「夢の先生」として小・中学校にお招きする「こころのプロジェクト 夢の教室」につきましては、11月5日から8日にかけて実施しております。今年度は、大曲中学校の2年生7クラスを対象に、公益財団法人日本サッカー協会から4名の夢先生を派遣していただいております、ゲームやトークを通じて夢先生と触れ合い、夢をもつことや、その実現に向けて努力する大切さを理解する貴重な機会となっております。

12 四ツ屋公民館改築事業について

四ツ屋公民館改築事業につきましては、9月に外構等の工事を終えており、令和3年度から進めてきた改築事業の全工程が完了しております。

13 第20回大仙市民交流囲碁大会について

8月25日、大曲交流センターを会場に、「第20回大仙市民交流囲碁大会」が開催されております。当日は、公益財団法人日本棋院に所属するプロ棋士を審判長としてお招きしており、対局や交流を通じ

て参加者の技術に向けた機会となっております。また、大仙市誕生20周年と20回を重ねた本大会の節目を記念し、大会運営にご尽力いただいていた2名の方に感謝状を贈呈しております。

14 大仙市ふるさと探訪楽園ツアーについて

大仙市ふるさと探訪楽園ツアーにつきましては、秋のツアーとして10月の自然・歴史探訪を皮切りに、5つのコースでツアーを実施しております。ふるさとの魅力を再認識するとともに、健幸まちづくりプロジェクトやふるさと博士育成事業との連携により、健康づくりや地域への理解を深める機会となっております。

15 第41回東北将棋大会及び第19回大仙市民交流将棋大会について

11月4日、大曲交流センターを会場に「第41回東北将棋大会」及び「第19回大仙市民交流将棋大会」が開催されております。日本将棋連盟に所属するプロ棋士2名を招待し、東北各地の実力者同士による名人戦をはじめ、実力に応じたクラスごとの対戦を通じて交流を深めております。また、本大会の関連イベントとして「大仙市小学生将棋対抗戦」が開催されており、小学生による熱戦が繰り広げられたほか、前日イベントとして「将棋指導講習会」も実施しており、初心者にも分かりやすくプロ棋士からご指導いただいております。

16 第17回大仙市子ども囲碁大会について

10月27日、はなび・アムを会場に「第17回大仙市子ども囲碁大会」が開催されております。当日は、公益財団法人日本棋院に所属するプロ棋士をお招きし、2部門のコースに分かれて対局が行われたほか、初心者囲碁入門教室も行っており、囲碁に親しむ機会を通じて参加者同士の交流が図られるとともに、囲碁文化の継承にもつながる貴重な機会となっております。

17 大仙市音楽祭2024について

11月9日と10日の両日、大曲市民会館を会場に「大仙市音楽祭2024」を開催しております。初日は、幅広い世代の愛好者による音楽会や、サクソ奏者のオリタノボッタ氏をスペシャルゲストに迎え、横濱音泉倶楽部による「大人のジャズコンサート」を行っております。2日目には、「0歳からのジャズ・ポピュラーコンサート」を行っており、訪れた多くの皆様にお楽しみいただいております。

18 「だいせん読書の日」関連イベントについて

11月7日の「だいせん読書の日」に関連するイベントとして、大曲図書館を会場に、11月2日から15日にかけて、本をあげたい方と欲しい方をつなぐ「ONE BOX LIBRARY」を実施しております。また、市内に在住、または在学している方からご応募いただいた推し本を紹介する「わたしの推し本コンテスト」の作品を大曲図書館に展示したほか、各地域の図書館では、「おはなし会」をはじめ、幅広い年代の読書を促進する関連イベントを実施しております。

【上下水道局】

19 上水道事業について

老朽化した配水管の改良工事につきましては、計画していた大曲戸巻町、大曲須和町及び角間川町字東本町のすべての工事を終えております。

また、県の電線共同溝整備事業に伴う大曲丸の内町地内の配水管移設工事、及びほ場整備事業に関連した市道拡幅事業に伴う内小友字馬場地内の配水管移設工事につきましては、年内の完成に向けて工事を進めております。

20 簡易水道事業について

西仙北地域大野地区と神岡地域神宮寺地区の統合事業につきましては、10月上旬に配水管布設工事を終え、10月15日に給水を開始しております。また、西仙北地域刈和野地区の仕切弁設置工事につきましては、11月下旬に完了しております。

21 下水道事業について

大曲地域若竹町地内における老朽管更新工事、及び仙北地域板見内地内における下水道管への不明水流入の解消工事につきましては、12月中旬の完成を予定しております。

また、協和地域の水沢地区と稲沢地区の農業集落排水施設統合事業につきましては、処理場の機械設備改修工事、電気設備改修工事及び防水・防食工事が2月下旬の完成に向け順調に進捗しております。

【経済対策】

22 物価高騰対策 6月定例会

(1) 住民税非課税世帯への支援事業

令和6年度に新たに住民税が非課税となった世帯に対し、1世帯あたり10万円を支給するもので、11月12日までに525世帯への支給を完了しております。

(2) 住民税均等割のみ課税世帯への支援事業

令和6年度に新たに住民税の均等割のみの課税となった世帯に対し、1世帯あたり10万円を支給するもので、11月12日までに554世帯への支給を完了しております。

(3) 定額減税補足給付事業

定額減税の対象となった方のうち、定額減税可能額が定額減税前の令和6年分推計所得税額、または令和6年度個人住民税所得割額を上回る方に対し、その差額を給付するもので、11月27日までに16,100人への支給を完了しております。

(4) 低所得子育て世帯への支援事業

令和6年度に新たに住民税が非課税となった世帯、及び均等割のみの課税となった世帯のうち、18歳以下の児童を養育する世帯に対し、児童1人あたり5万円を給付するもので、11月22日までに170人分の支給を完了しております。